

輸入 価格の上昇で調達難の可能性

アルミスクラップ相場上げも

十二月後半比で

橋本健一郎氏レポート②



橋本健一郎氏

【欄外】十二前半、E

CBトルシエ総裁の追加国債買取策の発表による欧州懸念後退の中、十月の米貿易収支が縮小したこと、十一月の米小売売上高が

〇九%増と予想以上に好調だったことから米景気回復期待が台頭。さらに中国CPI(消費者物価)が五・一%とインフレが進むも利上げがなかったことを好感。LMEアルミも、三三三ハドル(現物)と大台を回復した。後半は米格付け会社ムーディーズがアイルランド債の格下げをするも、欧州連合会台で欧州版IMFが決定されたことによる欧州懸念後退や、米クリスマス商戦が予想以上に好調だったこと、二〇一一年の中国自動車販売の増加予測を好感。一月十二日現在、LMEセツルで、四六六ドルスタートとなった。

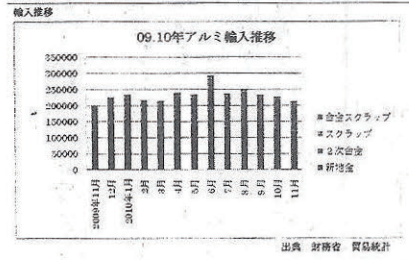
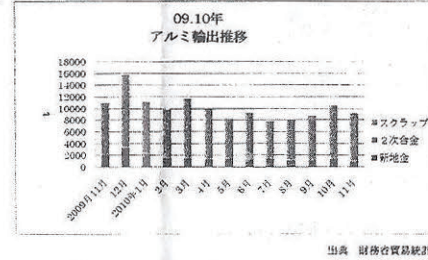
【前月の経済指標】

◆自動車各指標及び新設住宅着工戸数については、昨報第一〜二面参照

◆貿易指標

	9月	10月	11月
新地金	149 t	168 t	67 t
前月比	-10.8%	+6%	-57.6%
二次合金	978 t	1136 t	853 t
前月比	+9.6	+16.2%	-24.9%
スクラップ	7694 t	9230 t	8213 t
前月比	+9.5%	+21.5%	-11%
輸出推移			

	9月	10月	11月
新地金	14万438 t	12万9758 t	11万8880 t
前月比	-10.4%	-7.6%	-6.4%
二次合金	8万8096 t	9万1243 t	8万8394 t
前月比	-2%	+6%	-3.1%
スクラップ	705 t	877 t	651 t
前月比	+5.8%	-4%	-3.8%
合金スクラップ	6578 t	5360 t	4945 t
前月比	-3.4%	-18.5%	-7.7%
輸入推移			



【前月の国内指標】
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比三・八%増の一八万二、四七二t(前年同期〇・八%増)。日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比三・八%増の一八万二、四七二t(前年同期〇・八%増)。(関連のグラフはいずれも第八面に掲載)

【見通し】

自動車生産は前月比六・七%増の八〇万台と上昇、前年同期の四・八%増からも上昇した。それに伴いアルミニウム二次合金生産も前月比三・四%増と上昇、こちらも前年同期〇・八%増を上回る結果に。

ただ十二月の国内自動車販売が一八万台(前月比二・六%減)と統計以来の最低水準となつている。

圧延・押出品生産数は前月比三・三%増と前年同期の〇・八%増から上昇。新設住宅着工数も七万二千戸台と前月比で二%増と上昇改善の兆しがみられる。

アルミ輸出入統計は国内需要の好調に伴い、前月とはうって変わって輸出減輸入減の流れになった。

原料需給は十二月の国内自動車販売が統計以来の最低水準を継続するも、十二月の自動車生産計画が前年とほぼ同じであることから内需の不調を輸出がけん引するのでは。

輸入塊も上海シグマで一月現在で二、四〇〇ドルと大幅上昇し調達難が予測される。年末までは自動車販売不振不安やエコポイント終了による家電販売不振、円高などマイナス要因が多く、供給過剰になるとの見解が多数であったが、中国の自動車販売が一、八〇〇万台で前年比三〇%増と大幅上昇したことなどから一転したため、調達をしばっていたメーカーはひつ迫状態に。

LME価格については銅の史上最高値やETF(上場投資信託)につられる形でアルミも二、五〇〇ドル前後まで上昇したが、再び欧州懸念が台頭していることや、ここ最近の急伸の調整が入ることから二、三三〇〜二、五〇〇ドル台を予測。

価格が需給に左右されるアルミスクラップに関して、十二月期の自動車生産計画が前年並みだったことから内需不振を輸出がカバーする。また輸入塊の高騰をうけて、十二月後半価格比で据え置きから五〜一〇円の上げ予測。